



ご当地 お七さん 茨城

茨 歯 会 報

No.553

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

April
2015
平成27年

4



Contents

デンタルアイ	1
征 矢 亘	
会務	3
理事会報告	5
会務日誌	6
地域保健委員会だより	8
医療管理委員会だより	13
学校歯科委員会だより	24
センターだより	26
同窓会だより	30
専門学校だより	33
地区歯科医師会だより	38
黒 澤 俊 夫	
リレー通信	45
連 石 宏一郎	
レディースコーナー	47
長谷部 和 子	
追悼	48
会員の異動	49
国保組合 NEWS	51
茨歯アンテナ	52
赤えんぴつ	54

表紙写真について

となみチューリップフェア（富山県）での写真です。公園内では650品種250万本のチューリップが楽しめます。

(社)日立歯科医師会 小松 栄一

DENTAL eye

地域包括ケアシステムと 今後の歯科医療



専務理事
征 矢 亘

地域包括ケアシステムという言葉は、皆さんすでに聞いた事があると思います。団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される事を、地域包括ケアシステムとしています。

このことと我々の歯科医療とどのような関係があるのか、私の考えを整理してみたいと思います。

歯科医療は戦前まで長期に渡り、抜歯と欠損補綴の義歯製作を中心とした急性期に対応する医療が中心でした。その後戦後の高度成長期に国民の生活が少しずつ豊かになり、口腔衛生の概念の無いままに、食生活も大きく変化しました。口腔ケアもしないで間食のし放題。まさに、私の口腔内がその結果を表しており、1970年代を中心として、虫歯の洪水の時代でありました。当時の歯科医業は偶然にも疾病が増え、繁栄の時代を経験しました。その後、正しい口腔衛生の知識の普及など、口腔ケアを国民がしっかりと行うようになり、かつ、フッ素入り

歯磨剤による効果でどんどん虫歯は減ってきました。最新のデータでは、12歳のDMT歯数は1.0であり、ほとんどの子どもたちは真っ白いきれいな歯を持つカリエスフリーの子たちです。私が開業した、1985年はまだむし歯が多く、う触治療中心の急性期への対応の歯科医療をしていたことを思い出されます。きちんとした補綴治療を行うため、当時はスキルアップのためのテクニックの勉強をたくさんしていました。しかし、それだけでは世の中全体を見た時に患者さんの口腔の健康度合いの変化は微増でありました。

そこで、その後は治療から予防へ、予防中心の歯科医療へと目を向け、急性期から、慢性期、つまり生活の医療にシフトチェンジしてきました。1990年に熊谷崇先生を師事し同じシステムを導入した予防歯科診療をはじめました。

一昔前まで、多くの仲間は、虫歯が減ってきて仕事がなくなると心配していましたが、しかし、これは大きな間違いであり、虫歯がないからこそ、健康な状態を維持・増進させるために定期的なメンテナンスが必要となります。患者さんにとって喜ばれることは、むし歯の治療より健康な口腔の維持のほうが数倍価値が有るからです。

それと同時に、日本においては人口が減りはじめ、ここでも仕事が無くなるのではと心配する同級生がいますが、確かに、人口が減ればお医者さんは対象が減る可能性はありますが、我々の対象は残存している歯であり、もし8020が達成されたら、絶対に仕事は減らないと確信しています。総義歯になってしまえば、その後の歯科の仕事は義歯調整だけであり我々の介入すべき事は激減です。しかし、残存歯が多ければ、仕事はたくさんあります。目先の利益を考えるのではなく、長期ビジョンにたち、予防を中心とした歯科医療の展開が大切でしょう。

また、話題と少し離れますが、保険点数の医科、歯科の格差も気になる問題であり、その差を埋める手立てとして唯一簡単で効果があるのは先進医療を取り入れることです。つまり、CAD・CAM冠等の導入です。少し形成方法を替え、専用の接着セメントを用いるだけでほとんどシステムの変更はありません。この最新医療の導入で患者さんも喜び、我々もそこそこの利益が出せると思います。みんなでぜひ取り入れましょう。

しかし、現在の日本の高齢化のスピードを考えると老人への対応が今後必然的に多くなります。予防だけしてはもう遅いのです。次のステージ、高齢者への対応、つまり訪問診療などが、今後の歯科医療の主流になると私は個人的に考えています。ここで地域包括ケアシステムとの融合ができます。先日までお元気でメンテナンスにいられていた患者さんが、急に足

などが不自由になり定期的なメンテナンスに來れなくなっている方はどんどん増えてきています。また、広く周りに目を向けると、お口のこと困っている高齢者はたくさんいるはずです。このことから、多職種連携を図るべく、茨城県歯科医師会としては在宅歯科連携室を立ち上げ、10地区にポータブル治療器を配置しました。個人的に訪問診療をメインに行う歯科診療所も増えてきましたが、まだまだお口でお困りの高齢者の掘り起こしは不十分だと思います。そこで、私は、戦略を変え、自ら口腔に問題のある患者さんの掘り起こしをするべく、訪問看護ステーションを立ち上げました。訪問看護とは聞き慣れない言葉だと思いますが、医師の指示の下、病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で療養生活を送れるように、看護師、理学療法士等が生活の場へ訪問し様々なケアを行います。そして、自立へ向けて援助を促し、療養生活を支援する事を目的としています。そこで同時にお口の中を見て、問題がないか、あれば我々訪問歯科が担当し患者さんを支援しようと考えました。実際にケアマネさんからの依頼も増え、訪問前に患者さんの情報もいだけ、診療がしやすい体験をしております。今後は予防を中心に置きながらも、自ら地域へ出向く訪問診療の仕事量が確実に増えてきます。多職種と協力し合い、地域での医療を構築すべく地域包括ケアシステムが成功するようにみんなで協力していきましょう。

理事会報告

第13回理事会

日時 平成27年3月19日（木）午後3時

場所 茨城県歯科医師会館 会議室

報告者 征矢 亘

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報 告

- (1) 一般会務報告
- (3) 後援依頼について
第51回いばらき看護の祭典
- (4) 3月開業予定の歯科医院について
- (5) 平成26年度茨城県歯科医師会口腔保健事業
実施状況について
(参考資料) 平成25年度茨城県歯科保健事業
- (6) 8020・6424情報センター活動状況について
- (7) 疾病共済金の支払について
- (8) 茨歯会共済加入時の告知について
今までは病気の告知義務はなかったが新規
加入者には病気の告知義務が発生する。
- (9) 厚生局との来年度指導関係打合せについて
3月26日予定
- (10) 各委員会報告について
学術委員会、医療管理委員会、介護保険委
員会、専門学校

4. 協議事項

- (1) 入会申込書の受理について
大栗 重彦氏（つくば地区）の入会を受理した。
- (2) 平成27年度事業計画（案）について
標記事業計画（案）について、承認した。

- (3) 平成27年度予算（案）について
標記予算（案）について、承認した。
- (4) 平成27年度設備投資の見込みについて
標記設備投資見込みについて、承認した。
- (5) 第157回臨時代議員会について
標記について、報告事項等を確認した。
- (6) 別館（事務所棟）の建物使用覚書について
標記について、水戸歯科医師会と覚書を取
り交わすこととした。
- (7) 第2回地区会長協議会について
標記について、次第、報告事項等を確認した。
- (8) 口腔センターの改称について
標記について、再度継続審議とした。
- (9) 飯島弁護士への業務委託について
標記業務委託について、承認した。
- (10) 口腔ケア講習会の講師謝礼について
標記講師謝礼について、承認した。
- (11) 情報管理について
各地区並びに各委員会から担当者を選出す
ることとした。
- (12) （仮称）がん医科歯科連携パス作成プロ
ジェクト会議について
標記会議の設置について、承認した。
- (13) 学術委員会予備委員について
予備委員の委員会参加について、承認した。
- (14) 顧問の委嘱について
標記について、大和田弁護士、坂本公認会
計士に委嘱することとした。
- (15) 各地区会長への情報伝達について
外部サーバーを使用して情報を共有するこ
ととした。

会務日誌

- 3月19日 第12回広報委員会を開催。会報3月号の校正、会報4月号の編集、歯科コラムについて協議を行った。
出席者 菱沼広報部長ほか5名
- 3月19日 第13回理事会を開催。入会申込書の受理、平成27年度の事業計画（案）・予算（案）・設備投資の見込み、第157回臨時時代議員会、別館の建物使用覚書、第2回地区会長協議会、口腔センターの改称、飯島弁護士への業務委託、口腔ケア講習会の講師謝礼、情報管理、がん医科歯科連携パス作成プロジェクト会議（仮称）、学術委員会予備委員、各地区会長への情報伝達について協議を行った。
出席者 森永会長ほか18名
- 3月19日 第2回地区会長協議会を開催。口腔センター問題、シニア共済の覚書及び平成26年度収支現況、関東地区役員協議会、地区会長提出議題について協議を行った。
出席者 間宮日立歯科医師会会長ほか25名
- 3月19日 第54回IDS定時総会を開催。平成27年度事業計画及び予算案について審議を行った。
出席者 森永取締役社長ほか25名
- 3月24日 日学歯第86回総会が日歯会館にて開催され、平成24年度事業計画・収支予算について協議が行われた。なお、席上、大槻武一郎氏（鹿嶋市）ほか12名が日学歯会長表彰を受けられた。
出席者 荻野日学歯予備代表会員
- 3月24日 県防災会議が県庁舎にて開催。県地域防災計画の改定について協議が行われた。
出席者 森永会長
- 3月24日 茨城型地域包括ケアシステム構築のための検討委員会WT会議が県庁舎にて開催され、標記ケアシステムの構築ほかについて協議が行われた。
出席者 征矢専務
- 3月25日 専門学校にて第4回体験入学を実施。歯科衛生士科13名、歯科技工士科3名の参加者に対して学校施設説明などを行った。
- 3月26日 未就業歯科衛生士の復職支援講習会を開催。現在未就業の歯科衛生士10名に対し、歯科衛生士科による講義、PMTCの実習を行い、その後希望者に対して就職相談を行った。
- 3月26日 県保健予防課との事業打ち合わせを開催し、平成27年度の歯科保健委託事業について協議を行った。
出席者 渡辺地域保健部長ほか5名
- 3月26日 第11回地域保健委員会を開催。本年度事業の反省と改善、フッ化物洗口パンフレット、産業歯科保健マニュアル、来年度事業概要について協議を行った。
出席者 渡辺地域保健部長ほか10名
- 3月26日 厚生局との指導関係打合せを開催。平成27年度指導計画及び平成26年度指導結果について協議を行った。
出席者 須藤厚生局茨城事務所長ほか5名、森永会長ほか5名
- 3月27日 県ユニセフ協会理事会が水戸市にて開催された。

- 出席者 森永会長
- 3月27日 都道府県地域医療構想（ビジョン）の策定及び医療計画について実務担当者連絡協議会が日歯会館にて開催され、対応について協議が行われた。
- 出席者 仲田理事ほか1名
- 3月28日 都道府県歯科医師会税務担当理事連絡協議会が日歯会館にて開催され、消費税への対応について協議が行われた。
- 出席者 大字常務ほか1名
- 3月29日 口腔ケア講習会（アドバンス・コース）を茨歯会館にて開催し、口腔機能の維持・向上をテーマに講習を行った。
- 受講者 38名
- 3月30日 JMAT研修会「反省会」が県医師会にて開催され、第1回JMAT茨城研修会の反省点ほかについて協議が行われた。
- 出席者 小鹿副会長ほか2名
- 4月 2日 都道府県社会保険担当理事連絡協議会が日歯会館にて開催され、医療保険制度改革等直近の諸問題の整理と伝達ほかについて協議が行われた。
- 出席者 榊常務ほか2名
- 4月 5日 平成27年度新規事業の障害児・者歯科研修会ベーシックコースを開催。今後3ヶ月の研修期間で講義・見学・実習を行う予定で、今回はその第1回目の講義を行った。
- 受講者 14名
- 4月 5日 第3回関東地区歯科医師会会長会議を千代田区「ホテルグランドパレス」にて開催し、時局対策について協議を行った。
- 出席者 森永会長
- 4月 7日 茨城政経懇話会4月例会が水戸京成ホテルにて開催された。
- 出席者 森永会長
- 4月 8日 内外情勢調査会4月例会が水戸京成ホテルにて開催された。
- 出席者 森永会長
- 4月 8日 第1回社保正副委員長会議を開催。第1回委員会、社保・国保審査委員合同協議会、指導、保険請求のQ&Aの別刷り、保険請求のQ&Aの改定版発行について協議を行った。
- 出席者 榊社会保険部長ほか2名
- 4月 8日 第1回社会保険委員会を開催。社保・国保合同協議会、指導、保険請求のQ&Aの別刷り、保険請求のQ&Aの改定版発行について協議を行った。
- 出席者 榊社会保険部長ほか21名
- 4月 9日 茨城歯科専門学校平成27年度入学式を挙行。歯科衛生士科50名、歯科技工士科11名の入学を許可した。
- 4月 9日 第1回厚生委員会を石岡市「東筑波C C」にて開催。平成27年度事業、第37回親善地区対抗ゴルフ大会について協議を行った。
- 出席者 千葉厚生部長ほか9名
- 4月12日 医療安全管理研修会を開催。有病高齢者歯科治療におけるリスクマネジメントをテーマに東京医科歯科大学大学院准教授 大渡凡人 先生が講演された。
- 受講者 83名

「世界会議2015」に参加して

地域保健委員会



2015年3月13日（金）～15日（日）、健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健「世界会議2015」が、東京国際フォーラムで行われました。地域保健委員会から渡辺・北見・土屋の3名が参加しましたので報告いたします。

第1日目（3月13日）

報告者 渡辺 進

第1日目は、下記の5つの講演が行われました。

- ①演題：「21世紀における生活習慣病予防とコントロールーWHOの戦略ー」

演者：Douglas W. Bettcher（世界保健機関（WHO）生活習慣病予防部長）

- ②演題：「日本における高齢社会の現状と医療の方向、特にナショナルセンターの立場から」

演者：大島 伸一（独立行政法人国立長寿医療研究センター 名誉総長）

- ③演題：「虚弱・サルコペニア予防における医科歯科連携の重要性：～高齢者の食生活を維持・向上するために～」

演者：飯島 勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構 准教授）

- ④演題：「高齢社会における歯科医療のあり方ー日本歯科医師会の役割ー」



演者：大久保 満男（日本歯科医師会 会長）

- ⑤演題：「高齢社会における口腔保健の未来像とはーFDIビジョン2020ー」

演者：Tin Chun Wong（FDI世界歯科連盟 会長）

この中から、Douglas W. Bettcher WHO生活習慣病予防部長のNCDに関する記念講演を紹介いたします。

世界保健機関（WHO）は、不健康な食事や運動不足、喫煙、過度の飲酒などの原因が共通しており、生活習慣の改善により予防可能な疾患をまとめて「非感染性疾患（NCD）」と位置付けています。心血管疾患、がん、糖尿病、慢性呼吸器疾患などが主なNCDです。

NCDは世界的に中年・高齢者で急増しており、2008年の世界の死亡数5,700万人のうち、63%にあたる3,600万人がNCDによるものです。WHOは、NCDによる死亡数は2030年までに5,500万に増加すると予測しています。

NCDによる死亡で割合が高いのは、「心疾患」（48%）で、次いで「がん」（21%）、「慢性呼吸病」（12%）と続いています。心疾患による年間死亡数は1,700万人（2008年）から2,500万人（2030年）、がんによる死亡数は760万人（2008年）から1,300万人（2030年）に増加すると予測し

ています。

冠性心疾患や脳血管障害に共通する原因の約8割は、喫煙、運動不足、不健康な食事、アルコールの過剰摂取などの不健康な生活習慣です。WHOは死亡率を引き上げる要因として、(1) 高血圧、(2) 喫煙、(3) 高血糖(糖尿病)、(4) 運動不足、(5) 肥満を挙げています。

以上の事から我々歯科医師が、NCD対策として、健康的な食事、適度な運動、禁煙支援と、まさに「口から始まる健康」に寄与するところは大きいと再確認いたしました。

第2日目(3月14日)

報告者 北見 英理

第2日目は、2つのシンポジウムが行われました。紙面の関係上、要点(キーワード)のみ報告いたします。

シンポジウム1は、「超高齢社会における歯科医療の課題」と題して、3つの講演がありました。

1. 演題：「高齢社会を迎えるにあたって我が国が目指したもの」

演者：辻 哲夫(東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授)

要点：①後期高齢期の生活の自立度を維持すること

②要介護状態における生活の質(QOL)を確保すること

具体的には、『予防及びケアの両面へのウイングの展開』です。予防については生活習慣病予防と虚弱(フレイル)予防の強化、ケアについては在宅医療を含む多職種連携による在宅ケアの推進です。虚弱予防を歯科学の視点から見ると、高齢期の低栄養の予防に対して歯科口腔機能(歯と摂食嚥下能力)の維持が重要である。また在宅の高齢者を含め介護の必要な高齢者

の大部分は、歯と摂食嚥下能力に加えて口腔内の清潔を維持する口腔ケアニーズが非常に高く、これへの対応も重要である。

【その他のキーワード：サルコペニア、ロコモティブ症候群、オーラル・フレイル、柏プロジェクト、食べることへの歯科医療の概念の拡大】

2. 演題：「超高齢社会における歯科医療」

演者：堀 憲郎(日本歯科医師会 常務理事)

要点：①歯科界の活性化 i) 歯科医療の重要性に関する更なる検証と提言 ii) 長寿社会の疾病構造に適した病名と歯科医療体系の再構築 iii) 新しい医療技術開発

②在宅歯科医療の推進 i) 地区歯科医師会の機能強化 ii) かかりつけ歯科医機能強化 iii) 診診連携の強化

⇒超高齢社会において生活、生き甲斐を支える歯科医療を実現し、もって健康寿命の延伸に寄与する

3. 海外演者、①Barbara J. Smith(米国歯科医師会 高齢者・要介護者審議会 委員長)、②Peter Engel(ドイツ歯科医師会 会長)、③Patrick Hescot(FDI世界歯科連盟 次期会長、フランス歯科医師会 元会長)、④Tin Chun Wong(FDI世界歯科連盟 会長、香港歯科医師会 元会長)、⑤Nam-Sup Choi(韓国歯科医師会 会長)の5人から各国の歯科医療の現状と政策などの発表があった。

※討論・ランチョンセミナー1については、省略いたします。

シンポジウム2は、「超高齢社会における歯科医療・口腔保健の展開と健康政策」と題して、7つの講演がありました。

1. 演題：「地域包括ケアシステムにおける歯科医療・口腔保健」

- 演者：吉田 学（厚生労働省大臣官房審議官
（医療介護連携担当））
- 要点：①地域包括ケアシステムは、まちづくりに係わる ②かかりつけ医 ③多職種協働 ④治す医療から予防する医療へ ⑤摂食嚥下等の口腔機能の回復を目的とした歯科治療
2. 演題：「これまでの日本の歯科保健医療政策と地域保健活動の実際」
- 演者：佐藤 徹（日本歯科医師会 常務理事）
- 要点：①「生活歯援プログラム（標準的な成人歯科健診プログラム・保健指導マニュアル）」
- ②全国がん診療医科歯科連携推進事業
3. 演題：「健康長寿に寄与する歯科医療・口腔保健のエビデンスと健康政策」
- 演者：深井 穂博（日本歯科医師会 理事）
- 要点：①「健康長寿社会に寄与する歯科医療・口腔保健エビデンス2015」の本の報告
- ②上記の本は、日本歯科医師会ホームページよりダウンロードできる
4. 演題：「地域における食支援」
- 演者：菊谷 武（日本歯科大学 教授、口腔リハビリテーション多摩クリニック院長）
- 要点：①摂食嚥下能力グレード（藤島）と摂食状況のレベル（FILS）の間には大きな乖離がみられた。
- ②患者の摂食機能は、本人の機能のみに左右されるものではなく、患者を支える環境因子（介護力）が大きな影響を与える
5. 演題：「超高齢社会における歯科訪問診療の実際－専門的口腔ケアは長寿の要－」
- 演者：米山 武義（米山歯科クリニック 院長）
- 要点：①超高齢社会において歯科訪問診療のニーズは非常に高い ②歯科疾患の予防に重点をおく ③歯科治療・口腔ケア・リハビリは肺炎予防の重要な3点セットである ④咬合・咀嚼の回復は在宅歯科医療の柱である ⑤口腔を通して全身疾患の予防に努める ⑥地域包括ケアと地域完結型医療 ⑦時代の要請としての多職種連携 ⑧診療室から在宅までシームレスに関わることができるシステムの構築
6. 演題：「医工連携事業化推進事業と訪問歯科診療パッケージの開発」
- 演者：富山 雅史（日本歯科医師会 常務理事）
- 要点：日本歯科医師会・日本歯科医学会・日本歯科商工協会の3者共同で開発した訪問歯科診療器材パッケージ「デンタルパックココロ」の説明がありました。
7. 演題：「要介護者のQOLの維持改善を踏まえた医療機器、器材の開発」
- 演者：山中 通三（日本歯科商工協会 会長）
- 要点：開発事例として、①歯周病検査装置 ②マイクロクラック検査装置 ③嚥下機能測定装置 ④IT利用によるコミュニケーションツール（ブラッシング指導）などの紹介がありました。
- ※討論については、省略いたします。

第3日目（3月15日）

報告者 土屋 雄一

第3日目は、まず、特別講演として、参議院議員の武見敬三先生に「世界の中での医療保険制度」と題して講演をいただきました。

次に、シンポジウム3「高齢社会に向けての新興国の課題と取り組み」－現状と将来予測に基づく、歯科医療・口腔保健のあり方について－と題して、①タイのOrapin Komin先生 ②インドネシアのArmasastra Bahar先生 ③タンザニアのFebronia K. Kahabuka先生 ④イランのMohammado H. Khoshnevisan先生 ⑤WHOアフリカ地域事務局のBenoit Varenne先生 による発表

がありました。

その後昼食をとりつつ、ランチョンセミナー2として、要町ホームケアクリニック院長の吉澤明孝先生に「在宅医師から見た緩和ケアにおける口腔ケア」と題して講演いただきました。

世界会議2015のまとめとして、健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健に関する『東京宣言』が発表されました。（次項のとおり）

そして、クロージングセレモニーにて、各国代表によるスピーチが行われ、主催者の挨拶と続き、中

島信也先生の閉会の辞で締めくくられました。

世界各国から、多くの歯科医師・歯科関係者が参加した「世界会議2015」、多くの為になる情報が得られ、有意義な時間を過ごすことができました。また、世界会議で発表された口腔の健康と全身の健康とのエビデンス集を活用して県民へ情報発信し、県民が歯科医療・口腔保健への関心と理解を深め、それが健康寿命の延伸に繋がるよう地域保健活動をしていきたいと思いました。

アイ・デー・エスは…

医師賠償責任保険

火災保険

所得保償保険

小規模企業共済制度

自動車保険

生命保険

…など各種保険の代理店、集金業務を行います。新規加入、増額変更、何なりと御用命下さい。

(アイ・デー・エスは、イバラキ・デンタル・サービスのイニシャルです。)

有限会社 **アイ・デー・エス**

代表取締役 **森 永和 男**

水戸市見和2丁目292番地 茨歯会館内 TEL:029(254)2826

健康寿命延伸のための

歯科医療・口腔保健に関する『東京宣言』

今、世界の多くの国は、医療の進歩や生活環境の改善により平均寿命が延び、急速な高齢社会を迎えつつある。同時に、平均寿命と健康寿命の乖離が生じ、結果として要介護者の増加という困難な事態に直面している。このことは、高齢者のQOLの低下の防止という極めて大きな課題を抱えることとなる。このような状況の中、健康長寿社会の実現に向かって歯科医療・口腔保健がどのようにかかわるかが問われている。

生活環境の変化による生活習慣病（非感染性疾患：NCDs）の増加がもたらす課題を解決し、それによって早世（壮年期の死亡）と急速な自立度の低下を予防し、要介護者を支援することがいま歯科医療に求められている。

WHOの「NCDs予防と重症化予防に関する世界行動計画」を踏まえ、NCDs対策を推進していくために世界の歯科医師会、その他の関係機関は、歯科医療および口腔保健の活動と成果を共有するべきである。

また、生涯にわたる口腔の健康は基本的な人権であることから、歯科医療・口腔保健はすべての健康政策に含まれ、提供されるべきである。

ここに健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健にかかわる「東京宣言」を発する。

1. 健康寿命の延伸に寄与する歯科医療・口腔保健のエビデンスの蓄積とそれに基づく健康政策を推進する
2. 歯科保健医療政策と地域保健活動の成果を検証し、その情報を各国が共有する
3. 生涯にわたる歯・口腔の健康の維持は、個人のQOLの向上とNCDsの予防および重症化防止のための基本的要素であり、健康寿命の延伸に寄与する
4. 超高齢社会において、各ライフステージで適切な歯科医療が提供され、国家レベルで口腔保健の実践に取り組むための基本的役割をすべての地域歯科医療機関が担う
5. 口腔疾患とNCDsの共通リスクを認識し、口腔疾患の予防と歯の喪失防止、口腔機能の維持、回復を図るための政策をライフコースアプローチとして推進する
6. NCDsの予防および高齢期における口腔機能低下の予防に寄与し、人々の生活を支えるために、歯科のみならず多職種連携で対応できる環境づくりを推進する

2015年3月15日

世界会議2015

医療+管理委員会 だより

平成26年度 第4回歯科衛生士復職支援講習会

医療管理委員会 篠塚 浩

平成27年3月26日、県歯科医師会館にて、本年度4回目の歯科衛生士復職支援講習会が開催されました。歯科衛生士の採用を希望する医院数に対し、歯科衛生士の人数は慢性的に不足しています。ハローワークなどを活用してもなかなか解消されないのが実情です。以前歯科衛生士の仕事をしていたが、結婚出産などで退職された方や、歯科衛生士の資格を持ちながら他の仕事に就いている方は少なくありません。本講習会は復職する意欲は持ちながら、ブランクがあるために歯科衛生士の仕事に戻ることに躊躇している方々、不安を感じられている方々の復職の後押しをし、歯科衛

生士不足解消の一助とするためのものです。

今回の講習会には、県内各地から10名の受講者が参加しました。会員の皆様にもお届けした講習会の案内ポスターや、ホームページ、衛生士会からのメール、本会付属の専門学校歯科衛生士科の同窓会組織である真珠会からのメルマガを見ての参加と、きっかけは様々でした。

森永県歯会長、大字医療管理委員会担当部長の挨拶の後、専門学校衛生士科の先生方による講義、続いて実習が行われました。今回のテーマは「P M T C・エアフロー」でした。参加者二人一組でお互いを交代で行われました。初めはごち



ない雰囲気を受講者もいましたが、次第に慣れてきて以前の感覚を思い出している様子でした。ただ、参加者のブランク、歯科衛生士としての就労経験年数はまちまちで、技量の差も少なからず見受けられました。中には専門学校卒業後に、ほとんど歯科衛生士の仕事をしておらず、何回かこの講習会に参加して自信をつけてから復帰したいと言う受講者もいました。この講習会は毎回テーマを変えて行い、再度の受講も受け入れやすくしています。

講習会の後には希望者に対する就職相談が行われました。今回は3名でしたが、求人募集を出された歯科医院は、県内各地から43件ありました。歯科衛生士の不足がいかほど深刻であるか、改めて分かりました。また今回は受講生たちの忌憚のない意見を聞くために、就職相談と同時にささやかなティータイムを設けました。

「短い時間のパートでも大丈夫でしょうか？」
「もっと長い時間勤務してもらえないと困ると言われないだろうか？」「年齢が若くないのだが需要はあるのでしょうか？」「以前勤めた歯科医院の先生が怖かったので心配」等、様々な声が聞かれました。

最後に受講生に行ったアンケートの結果を掲載します。求人をされている先生方の少しでも参考になればと思います。

次回の復職支援講習会の日程を掲載いたします。休職中の歯科衛生士の方をご存知の先生がいらっしゃいましたら、ぜひお声をかけて、ご案内して頂ける様をお願いいたします。

歯科衛生士復職支援講習会アンケート結果

- Q1 この講習会の事を何で知りましたか？
- A1 歯科医院の広告 2
- A2 ホームページ 1
- A3 友人・知人の紹介 2
- A4 真珠会お知らせ 3

- A5 衛生士会お知らせ 1
- A6 その他 1

Q2 講義の内容はどうでしたか？

- A1 丁度よい 6
- A2 物足りない 3

Q3 実習内容はどうでしたか？

- A1 丁度よい 7
- A2 物足りない 2

Q4 復職にあたって気になることは？（複数回答可）

- A1 給与・待遇 3
- A2 職勤務時間 7
- A3 職場の人間関係 3
- A4 その他 1

Q5 御友達に復職を考えている衛生士さんはいますか？

- A1 いる 2
- A2 いない 8

Q6 復職の時期は

- A1 3か月以内 1
- A2 1年以内 3
- A3 1年以上 2
- A4 条件が合えばいつでも 4

平成27年度歯科衛生士復職支援セミナー日程

第1回 平成27年7月15日（水）

テーマ：シャープニング・スケーラー・エアフロー
時間 10：00～12：00

講習会後就職相談受付可能

会場 茨城県歯科医師会館 講習費無料

問い合わせ 本会事務局 根本まで

一般社団法人 日本学校歯科医会 第86回臨時總會報告

日本学校歯科医会 予備代表会員 荻野 義重

平成27年3月24日（火）一般社団法人日本学校歯科医会第86回臨時總會が、日本歯科医師会館大会議室において開催されましたのでご報告いたします。

臨時總會当日午後1時30分より指名点呼が行われ、日本学校歯科医会副会長 齋藤愛夫先生の開会の辞に続き、議事録署名人の指名後、今年度亡くなられた先生方に対して黙祷を捧げた。

続いて清水恵太日本学校歯科医会会長からの挨拶に引き続き、来賓の大久保満男日本歯科医師会会長の挨拶がなされた。その後会長表彰が行われ、全国から今回は49名の出席者があり、茨城県では13名の表彰者のうち河口忠司先生と島田洋次先生が出席され表彰された。

報告に入り1) 特別委員会報告として議事運営委員会報告として本日のタイムスケジュールが発表された。2) 選挙管理委員会報告として会長予備選挙報告があり、3月10日各候補者の開票立会人のもと、開票が行われた結果、選挙権者数125名、返信総数118票、うち有効投票数116票、無効投票2票で、清水恵太候補者84票、飯嶋 理候補者32票で、清水恵太候補者の当選が決まった事の報告がなされた。3) 会務報告、平成27年度の予算概況が執行部より説明がなされ来年度の全国学校歯科保健研究大会は長野県で行われ、また全国学校歯科保健研究大会の学校歯科協議会は愛媛県松山市で行われる事で補助金等の説明がなされた。4) 会

計現況報告としては平成26年度の会費納入状況の説明があり、茨城県においては25年度より7名減の486名となっている。5) 各委員会報告、学術委員会報告として日学歯「学校歯科医の活動指針」の再改訂について、平成28年4月から改正施行されること、および日本学校保健会の「児童生徒の健康診断マニュアル」が改正される報告がなされた。委員会2として、児童生徒のGOの判定基準、その検証。委員会3として健康診断の事後措置についての実態調査の実施と解析検討、臨時健康診断や健康相談、健康教育等の実施状況調査について報告がなされた。また、基礎研修会の26年度までの受講者数は21,319名となっている。

2) 臨時委員会報告、内部統制検討臨時委員会答申書、内部統制等整備運用方法の検討等について山口勝弘委員長より報告がなされた。平成25年度に発覚した前事務局長による不正な会計処理を解明すべく公認会計士に会計処理を依頼し、その結果2,051万円あまりの使途不明金が生じた。再発を組織的に防ぎ、法人運営の健全をはかるため検討委員会が設置され、日本学校歯科医会の不祥事再発防止策が発表された。また、弁護士・光和総合法律事務所の花野信子弁護士より今回の調査について詳細が述べられた。

3) 中間監査報告、岡伸二監事より中間監査報告として事業実施状況、会計現況について報告がなされ、いずれも中間報告の段階ではあるが厳密に管

理されている事が報告された。

予算決算特別委員会報告として平成27年度事業計画案、新規事業として特別支援学校における自立的な健康増進を目指した食育調査、スポーツ歯学・特にマウスガードについての正しい知識の普及、児童虐待についての取り組みについて承認されたことが報告された。いったん休憩に入る前に代表委員より、前事務局長の不祥事について罪を軽くするような発言があったが、別の代表委員より当然会員の会費を不正に使用したので承服できないとの発言もあり、改めて今回の不祥事につい

てはまだまだ、（本人からの聴取ができない状態なので）時間がかかる見込みである。

議事として

第一号議案 一般社団法人日本学校歯科医会平成27年度事業計画

第二号議案 一般社団法人日本学校歯科医会平成27年度収支予算

一号議案、二号議案ともに可決承認された。

以上を持って第68回臨時総会の閉会を副会長の由井孝先生より挨拶があり散会となった。

電話相談のお知らせ

現在、茨城県歯科医師会では会員の方々の様々な疑問、問題に対処できるよう以下の3名の専門家と顧問契約を結んでおります。

顧問弁護士	大和田一雄氏	法律相談全般
医療アドバイザー	古川 章氏	保険請求や各種届出などに関すること
社会保険労務士	皆川雅彦氏	従業員との労働契約、労務関連など

相談したい事柄がございましたら、お気軽に茨歯会事務局まで電話、またはFAXにてご連絡ください。各先生との相談の日程などの調整、あるいは後日回答できるように致します。ただし、相談は無料ですが、その後は個別対応となります。



茨城県歯科医師会事務局

電話 029-253-2561
FAX 029-253-1075



当センター受診者の満足度 および要望に関するアンケート調査

茨城県身体障害者小児歯科治療センター

金子 雅子、高橋 裕子、山下 千春、関口 浩
野村 美奈、鈴木 哉絵、鬼澤 璃沙、村居 幸夫
征矢 亘、森永 和男

【目的】

本調査は、茨城県身体障害者小児歯科治療センターに通院する患児・者あるいは家族、施設職員を対象に対応・診療・施設などについての満足度および要望に関してアンケート調査を行い、その結果をセンター運営の改善資料として活用し、さらなる質的向上に役立てることを目的に実施した。

【資料および方法】

調査対象は平成26年10月15日から11月17日までの約1か月間に当センターに来院した障害児・者および健常児の家族、本人あるいは施設職員400名である。これら対象者に対して調査の目的を説明し、同意が得られた方にアンケート用紙を手渡し、即日回答したものを回収または後日郵送にて回収を行った。回答が得られたのは400名中376名であり、回収率は94.0%であった。

調査項目は以下の17項目である。回答方法は問1、2、16を除いて「非常に満足」、「満足」、「普通」、「やや不満」、「不満」の五肢択一形式とした。また「やや不満」、「不満」を選択した場合はその選択理由を記述してもらった。

問1. アンケートの記入者

問2. 当センターの初来院から現在までの通院期間

問3. 受付から診察開始までの待ち時間

問4. 受付職員の対応や態度

問5. 電話でのスタッフの対応

問6. 担当歯科医師の対応や態度

問7. 歯科衛生士の対応や態度

問8. 診療に対するの安心感や満足感

問9. 診療内容についての説明

問10. 診療終了から会計までの待ち時間

問11. 次回の診療までの診療間隔

問12. 診療費

問13. 診療室の環境

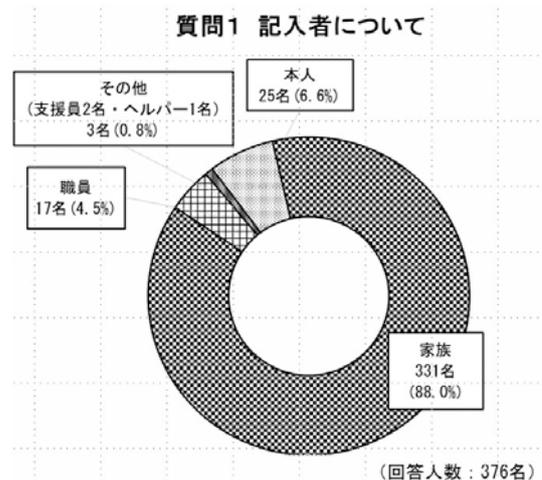
問14. 待合室の環境

問15. 駐車場の環境

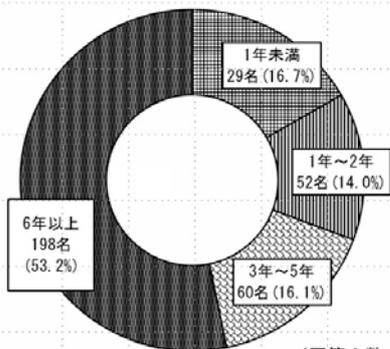
問16. 今後近隣歯科医院への転院を希望

問17. 当センターの総合的な満足度

【結果】

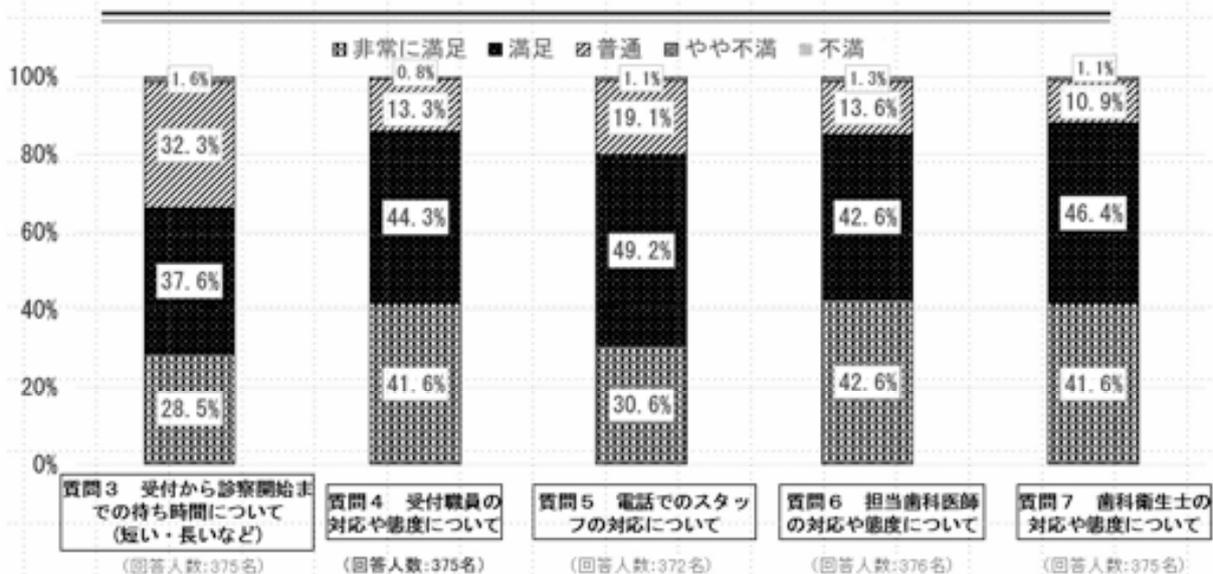


質問2 当センターの初来院から
現在までの通院期間について

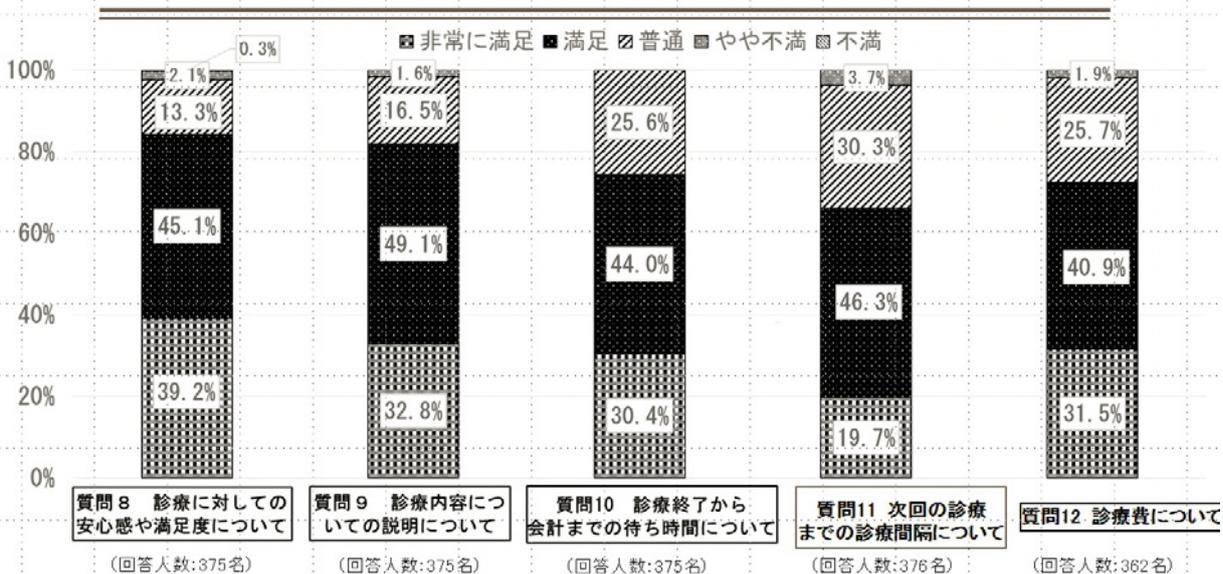


(回答人数：372名)

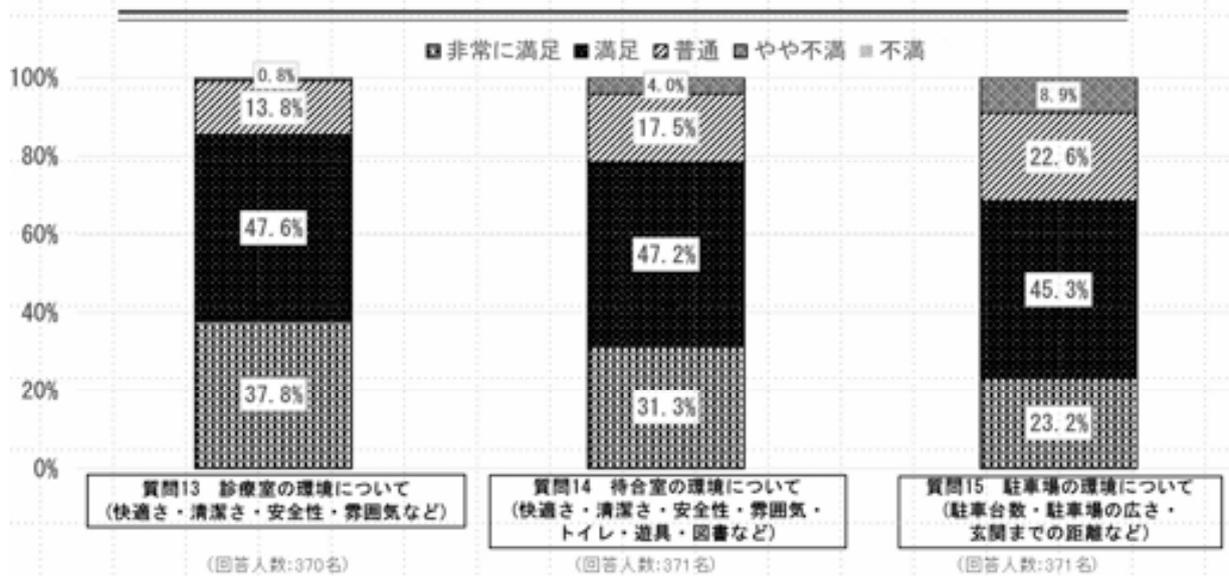
2、対応の満足度



3、診療の満足度

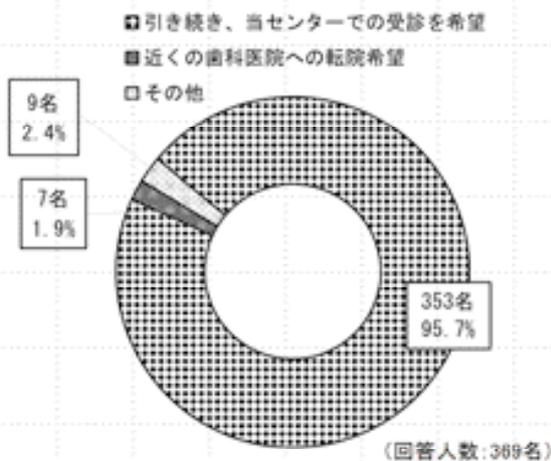


4、設備・環境の満足度

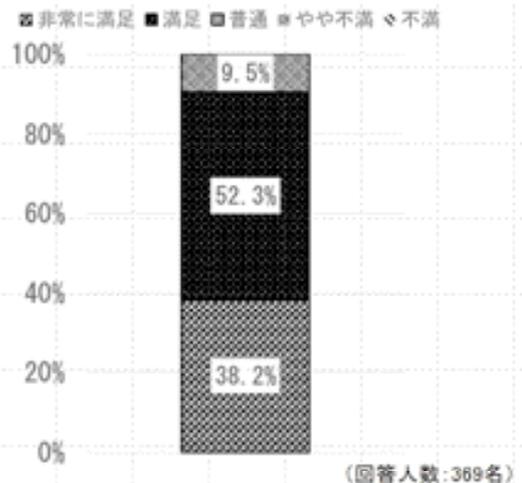


5、総合的な満足度

質問16 今後近隣の歯科医院への 転院を希望しますか



質問17 当センターの総合的な満足度について



満足度の順位

- 質問1、2、16を除き、質問項目別に、選択肢に以下の配点基準を設けて、評価した。

【配点】

非常に満足	5点
満足	4点
普通	3点
やや不満	2点
不満	1点

- 最も高い平均値を示した項目から順に並べる

満足度の順位

満足度順位	項目	● 対応の満足度 ⊕ 診療の満足度 ● 設備・環境の満足度					回答人数	平均
		非常に満足 (5点)	満足 (4点)	普通 (3点)	やや不満 (2点)	不満 (1点)		
1	歯科衛生士の対応や態度について	780	696	123	8	0	375	4.27
2	担当歯科医師の対応や態度について	800	640	153	10	0	376	4.26
2	受付職員の対応や態度について	780	664	150	6	0	375	4.26
4	当センターの総合的な満足度について	705	772	105	0	0	369	4.21
5	診療に対するの安心感や満足感について	735	676	150	16	1	375	4.20
6	診療室の環境について	700	704	153	6	0	370	4.16
7	診療内容についての説明について	615	736	186	12	0	375	4.12
8	電話でのスタッフの対応について	570	732	213	8	0	372	4.05
9	診療終了から会計までの待ち時間について	570	660	288	0	0	375	4.04
10	待合室の環境について	580	700	195	30	0	371	4.00
11	受付から診察開始までの待ち時間について	535	564	363	12	0	375	3.92
12	診療費について	570	592	279	14	0	362	3.87
13	次回の診療までの診療間隔について	370	696	342	28	0	376	3.82
14	駐車場の環境について	430	672	252	66	0	371	3.78

【考察および結論】

- ①記入者については、8割以上が家族である事から、患者対応というのは患者単体だけではなく、その家族・保護者との関わりが重要となってくる事が分かった。
- ②当センターの初来院から現在までの通院期間について、半数以上が6年以上通院しており新患も増加している。
- ③対応の満足度は、スタッフの対応について8割以上が非常に満足・満足という意見だが、やや不満・不満も若干ある事から、今後更に歯科医師・歯科衛生士・受付職員がそれぞれの立場で誠意ある態度で望むことが求められる。
- ④診療の満足度は、診療に対するの安心感や満足度、説明に対して8割以上が満足を感じているが、診療間隔や診療費では不満の意見もあった。
- ⑤設備・環境の満足度は、8割以上が診療室・待合室の環境は満足しているが、駐車場の環境では

不満を感じている意見があり、その理由は車椅子の駐車スペースが狭いため、早急に対応する必要がある。

⑥近隣歯科医院への転院希望については、9割以上が引き続き当センターへの通院を希望しているが、1割弱は近くの歯科医院を希望している。今後、地域医療機関と協力体制の構築を推進し、連携を深めていく必要がある。

⑦総合的な満足度は、9割以上が満足の意見があり、不満の回答はなかった。しかし、それに甘んじることなく、不満を感じている来院者、意見や要望のある来院者がいる限り、より良い医療サービスを提供できるよう向上していかなければならない。その為には、常に来院者の意見を真摯に受け止めるように心掛け、そして不満・意見・要望に対してスタッフ間で検討し、早期改善に努めていきたい。



(社) 珂北歯科医師会 遠藤 一字

平成26年11月29日(土)つくば国際会議場にて奥羽大学歯学部同窓会茨城支部主催による学術講演会が開催されました。

講師には奥羽大学歯学部 成長発育歯学講座 小児歯科学分野 島村 和宏教授を迎え「安心・安全な小児歯科診療を目指して」の演題にて熱心な講演が行われたので、内容の要点を報告します。

1. 何か(ヒヤリ・ハット事例など)が起きるのは・・・

人的要因

患者側の身体的特徴・疾病・性格

医療者側の知識・技術・性格

環境要因

システム 手順・書類など

物品 性格・配置など

2. 安全な診療のためには

患者の観察によるリスクの回避

診療室において

使用材料によるリスクの回避

準備・情報管理によるリスクの回避

抑制下診療におけるリスクの回避

3. 今あらためて、歯科医療従事者としてできることは？

子供たちをしっかりと見る・診る

見逃しはないか？

思い込みはないか？

確認はしたか？

4. 関係者が健診での質問事項や医療情報などの情報を、共有することが大切

5. 患者さんの顔を見て分かることは



口元のゆがみ・腫れ・痛そうな様子・自信がありそう、なさそう・くせ・顔色・風邪?・体調不良

心理的要因での顔色の变化

泣いていたら→泣きの理由を考える

(痛い・怖い・甘え・拒否)

結果的に変化を先取り→危険を避ける→安全な診療

6. 小児歯科診療上のチェックポイント

子供への配慮

・子供の気持ちを考える

精神・言語発達を知る(好奇心、恐怖心、理解力、伝達力)

・子供の成長を考える

身体、運動発育(発達)を知る(口の中を含めた成長、視線)

・診療の時間帯

空腹時・疲労時は避ける

午後は疲れて眠くなる

昼寝直前や夕方は体力的にも精神的にも、落ち着いて治療を受けられない

保護者への配慮

- ・保護者の心理を考える

- 共感的態度

- 小児の成長発育に関する知識

- 説明の工夫

7. 子供との接し方・不安にさせないための工夫

治療にあたっての一般原則

1) 低年齢児は午前中診療、幼児では30分以内

2) 3歳以降の健常児では母子分離 (Drの判断)

3) 常に励ます・ほめる・手を握る

ほめる時は出きれば大げさに・恐怖心を植え付けない

4) 嘘をつかない

5) 嫌な言葉を避ける (痛い・チク・注射・尖っている)

赤ちゃん言葉はダメ・名前や愛称で呼ぶ
他の子供との比較

特に、比較して出来ない、などの否定的表現

6) 言葉を言い換える

エアースリンジ→風・シャワー

タービン→ジェット機

エンジン→電車

バキューム→掃除機

麻酔後の痺れ→歯とほっぺた、唇が寝ている

7) 少しずつ説明して、体験させて不安を取り除く

TSD Dから始める事もある

自分が緊張しない

8) いきなり口の周囲や口の中を触らない

特に障害児でもスキンシップは重要

9) 兄弟や同年齢の子供を見学させる

プライドをくすぐる

10) 子供の目線を考える

例えば3歳では96cm 15kg

8. 局所麻酔薬の使用

2005年全国の大学小児歯科で調査の結果、不快事項は2.6%と少なく、重篤な事故は無し

他に、局麻アレルギーは1%前後、アナフィラキシーは少ないとの報告もある

短時間作用ながら、スキन्दネスト (3%メピバカイン) の使用も有用

9. 抑制下歯科治療時の注意点

1) 保護者の承諾とカルテ記載

2) 処置時間の短縮

3) 抑制圧を変える (時々ゆるめる事も必要)

4) 体位の安定 (腰や膝下へのクッション挿入)

5) 患児の観察 (顔、口唇の色、呼吸の様子)

もしもの時はBSLとAED

10. 問診とカルテ記載のポイント

- ・コミュニケーション

言葉や身振り、筆談などで意思の疎通がはかれるかどうか

またどの程度のやりとりが可能か

保護者や学校、施設の教職員など誰となら可能か

- ・薬剤の使用

基質疾患の治療やコントロール目的に使用されている薬剤を知り、診療時の影響や自院で処方した薬剤との相互作用を確認する

局所麻酔薬や消毒薬、抗菌剤などのアレルギーについての問診は重要

11. 感染

患者が感染症に罹患している場合には、他の患者や医療従事者への感染を防ぐための対策が必要

また患者の免疫機能が低下し易感染性である場合には、診療室の環境や他の患者、または医療従事者からの新たな感染を防ぐために、予約の調整など逆隔離ともいえる優先診察制度 (triage トリアージ) が必要な場合がある

12. 体位

診療に際しては、水平位・仰臥位が基本となるが、その固定された体位が患者へ負担とならないように疾患や障害の状態とともに、日常生活の様子や姿勢も聴取する

患者の状態によって体の角度を調節し、脳性麻痺患者の震えや筋疾患患者の姿勢維持困難に対してはタオルや抑制器具などの固定が必要となることがある

誤飲や誤嚥を防ぐためにも、患者の肉体的負担が少ない体位が望ましい

患者にとって楽な体位が術者にとって有利とは言えないことから、ミラーテクニックの習得も処置をスムーズに行うための一つの方策である

13.

1) 医療面接の充実と患者情報の共有

面接内容と診療録記載

診療時の言動・手順・注意事項

2) 診療時の術者・介護者の位置、患者の体位

ユニットと患者の身体、頭部位置、開口

3) 患者の観察

顔色・態度など

4) 診療室の整備

資器材の再確認・配置・小児・高齢者の目線

5) 抑制時の注意

モニタリング・緊急時の対応（スタッフ全員）

まだまだウ蝕の治療が優先される患者さんがいます。

関係者が情報を共有しながら、基本的な対応・処置を確実に行うとともに、様々な方法の組み合わせも必要かもしれません。

当たり前と思われることが、確実にできているかが、リスクの軽減に大切です。

以上のように講演内容をまとめて見ましたが、講演では多数の医療事故の事例を交えての内容であり、小児に限らず大人を中心とした日常の一般診療においても十分気をつけなければならないという事と、そのための知識と技術も身につけておく事の必要性をひしひしと感じるものでありました。講演後は重い気分をかなぐり捨てて懇親会で大いに盛り上がり終了となりました。

原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。

「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。

Eメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。

詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会



【第23回茨城県歯科医学会参加】

— 歯科衛生士科 —

2月22日（日）水戸プラザホテルにて開催されました第23回茨城県歯科医学会に1年生47名2年生47名が参加いたしました。2年生は一般口演で4人の代表者が歯に関わる下記の題材についてアンケート調査及び実験結果したものを発表しました。

「歯磨剤に対する意識調査」

「歯ブラシの比較」

「う蝕活動性試験からみえてきたこと」

「飲み物が及ぼす歯への影響」

また、昨年引き続き「弁当プロジェクト第2報」—食べる機能を育てる—というテーマに、幼児、小学校低・中学年向け弁当を対象に、歯科衛生士科全学年に考案してもらい約300のレシピが集まりました。その中から優秀なものとして会長賞は、「生春巻き」、校長賞に「エノキの肉巻」「イカとれんこんのガーリックピラフ」「パプリカ・ベーコンの卵焼き」が表彰されました。作成内容は、その年代に必要とされるカルシウムや食物繊維・塩分について着目し、全体の栄養バランスはもちろん五感が刺激されるレシピの中から選出されました。お弁当パッケージデザイン部門では、最優秀賞として本校歯科技工士科2年生の吉田恵梨子さんの作品が選ばれました。



ロビーにおいては、「茨城歯科専門学校の紹介」を行いました。2年生は空き時間を利用してそれぞれ自分が聞きたいテーマを聴講したようです。

1年生は、現在の歯科の様々な症例や講演を通じて、さまざまな刺激を受け改めて「歯科衛生士とは」、を考えるよい機会になったと思います。

（文責 須藤）



□歯科技工士科□

同じく、第23回茨城県歯科医学会に歯科技工士科1、2年生23名と教員4名が参加しました。

午前10時からの茨城県歯科技工士会と共催する第11回歯科技工士科卒後研修会では、講師に東京で歯科技工所を開設されている石川功和先生（日本歯科技工士会認定講師）を招聘し、「総義歯が上手い！と言われる為には」のテーマで講演いただきました。

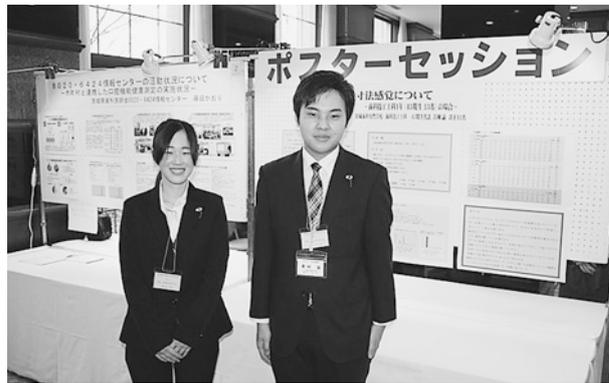
講演では、高齢化社会を迎え、ますます歯科医療への関心と要求が高まるなかで、患者さんに受け入れられる喜ばれる総義歯をつくるためには、歯科技工士は歯科医師、歯科衛生士と伴に情報を共有しなければならないと述べられました。人工歯排列ではデンチャースペースの重要性とご自身が取り入れている咬合様式（リングライズドオクルージョン）の有効性を紹介されました。学生には、基本の大切さを述べられ、臨床の間ではそれらを活用できる能力と素地が求められるとされ、意識を持ってこれからの実習や歯科技工に臨んでほしいと話されました。



一般口演では専任教員の川崎邦彦が「レジン重合における寸法変化」のテーマで発表しました。加熱重合レジンの重合を加熱条件を変えて行い、その変形量を比較したものです。実験の結果は今後の授業、実習に取り入れて行きたいと考えております。

1年生（青柳諭 他13名）は「寸法感覚につい

て」のテーマで、これから歯科技工士として身につけなければならない寸法感覚が、入学当初と半年ほど学習した後ではどの位変わったかを調査しポスター発表しました。また、学校紹介では1、2年生の実習作品を展示し、来場者に説明を行いました。



この学会に参加し、各講演を受講し、自分達もまた発表することで、これからなろうとする職業が社会でどのような役割を果たしているかを確認することができたのではないかと思います。

（文責 山田）

【歯科衛生士国家試験】

平成27年3月1日（日）午前9時より第24回歯科衛生士国家試験が行われ、本校も3年生49名が、この日冷たい雨の降る中、試験会場である日本大学理工学部3号館に向かいました。

前日の正午に水戸を出発し、試験会場を下見した後、宿泊先のホテルに入りました。学生の表情と言え、早くも緊張している人、やるだけやったと泰然とした様子の人、いつもと変わらぬマイペース派とそれぞれです。各自自由に夕食をとった後は、明日の試験に向けて、最後のまとめに入りました。ホテルの部屋で勉強する学生もいれば、2時間貸切りのホテルレストランでグループを作り問題を出し合ったりする学生と、自分に合った方法で最後のまとめ学習を行ってしまし



た。

試験当日の朝は、6時30分からの朝食に副部長の小澤先生がいらして、学生に声をかけて下さいました。慌ただしく支度をして、バスに乗り込み7時半にはホテルを出発、途中でバスを降りて狭い路地を試験会場へと向かいました。既に多くの受験生であふれた会場の独特の雰囲気、始めは落ち着かない様子の学生もいましたが、試験開始の時間が近づくとつれ、落ち着きを取り戻した様子で自分の席に着き、私達は、静かになったキャンパスを後にしました。昼食をはさんで、午後4時までの試験時間、茨城歯科専門学校で過ごした3年間は長い月日であったかもしれませんが、今日この日のために費やしてきた時間であることをしみじみと感じました。

午後4時、学生たちがどんな顔で出てくるのか、どんな顔で迎えればいいのか、何と言葉をかければいいのか、いろいろな思いが浮かんできましたが、結局いつもとかわらない学生達でした。

3月27日（金）に国家試験の結果が出て、残念ながら4名の学生が不合格となってしまいました。この1年間の反省点、見直す点を踏まえて、また新たな気持ちで全員合格を目標に準備していきたいと思います。

（文責 根目沢）

【歯科技工士科 国家試験(茨城歯科専門学校)】

平成27年2月12日（木）、13日（金）2日間を通して平成27年歯科技工士科国家試験が茨城歯科専門学校にて実施されました。来年からは全国统一試験になりますので、茨城県での実施は今年が最後となります。

2年生15名が受験し、初日は学説試験、2日目には実技試験という内容で行われました。そして3月13日（金）10時に合格発表があり、無事に15名全員が合格することが出来ました。

2年間で学べたことは歯科技工の基本（さわ）りであり、これから卒業生が臨床経験を積み、歯科技工士としての技術を磨いて活躍することを願っています。

（文責 大槻）

【26年度卒業式挙行】

喜びと期待を胸に

3月4日（水）午前10時から茨城県歯科医師会館講堂で卒業生を含めて関係者約280名を集めて茨城歯科専門学校の卒業式が挙行されました。

本年度は歯科衛生士科49名、歯科技工士科15名が式に臨みました。

式は、田中晃伸教頭の司会により進められ、国歌斉唱、校歌斉唱に続き小澤永久教務副部長（歯科衛生士科）野口知彦教務副部長（歯科技工士科）が卒業生の氏名点呼を行い、小鹿典雄学校長から一人ひとりに卒業証書、記念品が授与されました。

次いで成績優秀者・無欠席者・特待生の表彰が行われました。

◇成績優秀者

（歯科衛生士科）

齋藤真衣さん、赤津有美さん

七戸晴佳さん

(歯科技工士科)

高橋眞由美さん、渡邊由佳さん

◇皆勤賞

(歯科衛生士科)

秋葉寧々さん他8名

(歯科技工士科)

渡邊由佳さん他1名

◇特待生褒賞

(歯科衛生士科)

齋藤真衣さん、横田加代子さん

赤津有美さん

(歯科技工士科)

高橋眞由美さん、渡邊由佳さん

◇特別表彰 (いばらき専門カレッジリーグ賞)

(歯科衛生士科)

七戸晴佳さん

(歯科技工士科)

浅野森吾さん

以上の表彰者に表彰状と記念品が授与されました。



卒業証書、記念品の授与

引き続き、日本歯科衛生士会長表彰ならびに日本歯科技工士会長表彰があり県歯科衛生士会副会長ならびに県歯科技工士会会長からそれぞれ片寄知香さん、渡邊由佳さんに表彰状と記念品が贈られました。

式辞で小鹿学校長は「これから皆さんには歯科医療のプロとしての仕事が求められます。仕事を覚え、技術に磨きをかけるために更なる研鑽を積ん

でください。そして今日の感激を忘れず、真摯な心で、常に正しく、強く、高く邁進することを期待します。」とはなむけの言葉を送られました。

続いて森永和男県歯科医師会会長、西野雅之県歯科技工士会会長、秋山孝子県歯科衛生士会副会長の祝辞を受けました。

また、鈴木祐子歯科衛生士科同窓会真珠会副会長、瀧川三雄歯科技工士科同窓会みわ会会長の来賓紹介が行われました。

その後、在校生の萩野谷優さんの「人々に愛される歯科衛生士、歯科技工士になって私たちの模範でいて下さい。」と心のこもった送辞を受けて高橋眞由美さんが卒業生を代表して感謝の言葉とともに「立派な歯科衛生士、技工士になることを誓います。」と答辞を述べました。



送辞を述べる萩野谷優さん



答辞を述べる高橋眞由美さん

卒業生代表の鈴木奈月さんからの記念品贈呈で式は終了し、記念撮影ののち、卒業生や関係者は謝恩会会場「フェリヴェールサンシャイン」に向

かいました。

(文責 大槻)

【謝恩会】

卒業生主催による謝恩会が3月4日(水)卒業式終了後午後3時より水戸市のフェリベールサンシャインにおいて開催されました。

両科代表による司会進行のもと、初めに謝恩会委員長歯科衛生士科横田加代子さんより挨拶があり、続いて学校長小鹿典雄先生と県歯科医師会会長森永和男先生よりお言葉を頂きました。また、在学中お世話になった先生方に感謝をこめて歯科衛生士科の磯山歩さんより校長先生に花束贈呈が

行われました。

その後、校長先生がサプライズとして田中教頭先生の還暦のお祝いに「赤いちゃんちゃんこ」をプレゼントし、それを着た田中教頭先生のご発声で乾杯が行われ、歓談に入り、スライドショーなどの余興が行われ、在学中の思い出を振り返ることができました。

また恒例のビンゴゲームでは、先生方からいただいた豪華賞品の当選を求めて、全員が夢中になり盛り上がりしました。

最後に茨城歯科専門学校の益々の発展を祈念して卒業生を代表して歯科衛生士科の金子愛美さんの音頭で三本締めが行われ、閉会となりました。

(文責 須藤)

会員へのお知らせ

日本歯科医師会福祉共済制度について

1. 死亡共済金受取人順位の変更について

受給権者をあらかじめ指定した方で、結婚、離婚、再婚、死別などにより受給権者の状況に変更があった場合(指定の確認は茨城県歯科医師会までお問い合わせ下さい)。

2. 火災・災害共済指定物件の変更について

住宅及び診療所所在地の変更があった場合(変更届出前に火災、災害に遭われた場合、所定の共済金が支払われないことがありますので、変更時に必ずお届け下さい)。

※ これらの変更については、所定の様式がございますから、茨歯会事務局(TEL 029-252-2561: 担当 根本)までご請求願います。



—がん診療、超高齢社会に対応するために—

地域連携の架け橋・ 「日立モデル」の創設と現況

(社)日立歯科医師会 地域連携委員長 黒澤 俊夫

1. はじめに

団塊の世代が一斉に75歳を迎え後期高齢者になる2025年まであと10年。そして、2025年には75歳以上の後期高齢者は2200万人、要介護者、要支援者は800万人に上ると推定され、医療、介護、福祉サービスへの需要が高まることから社会保障財政のバランスが崩れることが懸念されています。いわゆる2025年問題が、あちこちで浮上しております。

日立歯科医師会管内の県北地域においても、2025年には日立医療圏の3市併せて、総人口は23万人に減少。一方、後期高齢者人口は4万8千人に増加し、そのうち要介護者、要支援者は1万7千人と推定されています。後期高齢者は心身の衰えが顕在化して老年症候群や認知症が増加し医療

受診の割合が高くなることが危惧されます(図1～3)。

また、二人に一人が「がん」にかかり、三人に

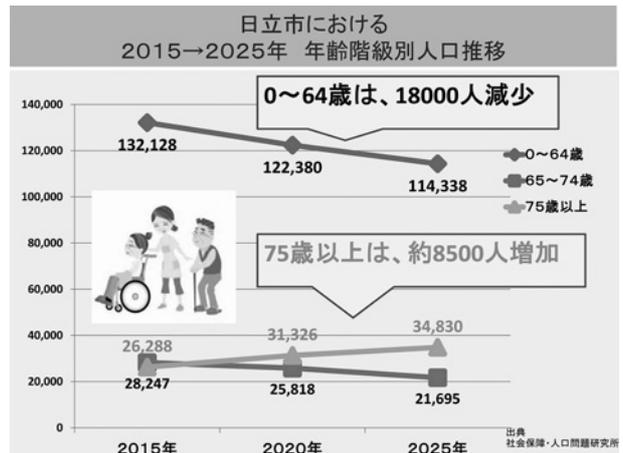


図2 日立市における人口推移、前期高齢者は減少していくのにも関わらず、後期高齢者は激増していく

2025年には、5人に1人が75歳以上

県北3市の将来人口 75歳以上

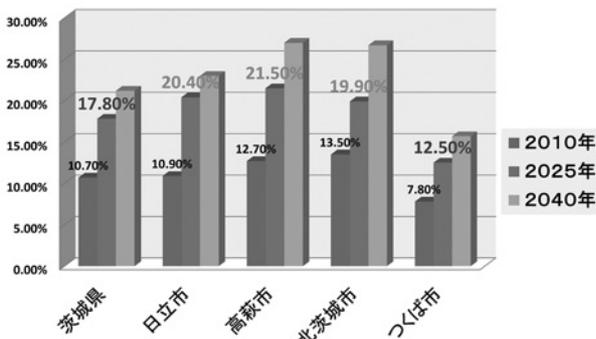


図1 県北三市、2010～2025年には、後期高齢者率は他地域に比べ急増していく

後期高齢者の医療・介護度は急速に高まる

鈴木隆雄 「超高齢社会の基礎知識」

前期高齢者(65～74歳) ヤング・オールド	後期高齢者(75歳以上) オールド・オールド
健康度が高く活動的	心身の衰えが顕在化
社会的貢献度も高い	老年症候群、虚弱(フレイル) 認知症が増加
就労意欲が高く、就労率が高い	医療機関受診の割合が高い (85.8%)
要介護認定者の割合が低い (14.3%)	要介護認定者の割合が高い (86.4%)

図3 老年症候群、虚弱(フレイル)、認知症が顕在化する後期高齢者、しかし、豊かな健康長寿社会へと転換を図るためにも、口腔ケア等口腔管理の意義は大きい

一人が「がん」で亡くなる時代を迎えています。

2013年6月、このような超高齢社会を見据えて日立歯科医師会（間宮高弘会長）と、がん診療連携拠点病院である日立総合病院（奥村稔病院長）との間で地域医療連携に関する協定書が結ばれました。その概念として「日立モデル」を創設し、豊かな超高齢社会を目指して地域における医科歯科連携を積極的に進めています。以下、その概要について述べてみたいと思います。

2. 地域医療連携協定までのロードマップ

2012年12月、日立総合病院において、厚労省チーム医療普及推進事業の一環として「地域連携・医科歯科連携を考える」をテーマにシンポジウムが開催されました。そこで、筆者は地域における「かかりつけ歯科医」の立場から術後のがん合併症で悩まれる症例について「食」をキーワードにしてプレゼンテーションをさせていただきました。その時初めて、日立総合病院においても、がん周術期等における口腔管理の重要性について大きな関心を寄せていたことが理解でき、病院歯科と地域歯科医師会との間に連携の光が灯り始めたことを実感できました。

それから程なく、2013年4月の診療報酬改定により「がん患者等の周術期における口腔機能の管理」、「チーム医療の推進」が新設項目として加わり、地区歯科医師会としても、がん治療や医科歯科連携に向けての舵取りを強く求められて来ました。そこで、革新的と言えるこの制度を地域に根付かせ定着させることは、医科歯科連携の推進、病院歯科との連携強化、さらには肺炎発症等がん術後合併症の軽減に伴う医療費の適正化、ひいては歯科医療の社会的評価の高揚につながり、豊かな超高齢社会への扉が開けると確信した次第です。翌5月、日立歯科医師会と日立総合病院との間で、がん周術期の口腔機能管理はじめ生活習慣病をテーマに初の懇談会が開催され、現況について、両

者の本音を語り合うことができました。それを機に今まで不透明であった医科歯科間の意思疎通が図られ、本格的な病診連携、医科歯科連携がスタートすることとなりました。

その懇談の中で奥村病院長は、日立総合病院と日立歯科医師会等を絡めた日立医療圏について描いてきた未来図である「日立モデル」について説かれました。初めて耳にする「日立モデル」に傾ける遠大な想いは医科歯科連携に向けて、まさに夢膨らむ語りでありました。

翌6月、がん周術期口腔管理・医科歯科連携講習会の開催を経て、両者間で地域医療連携協定を結び、10月、地域連携歯科医証発行をもって本格的な医科歯科連携体制が出来上がりました（図4、5）。



図4 懇談会では、これからの医科歯科連携について両者の本音が語られた

地域医療連携に関する協定書 2013年6月
地域連携歯科医証 2013年10月



図5 地域医療連携協定書の締結、そして連携歯科医証発行は、地域医療連携のステップアップにつながった

地域医療連携協定書には、具体的に次の事項が上げられています。

- (1) 周術期口腔機能管理に関すること
- (2) 生活習慣病の予防及び保健指導に関すること
- (3) 歯科健診に関すること
- (4) 地域災害時の歯科保健医療支援活動に関すること
- (5) その他必要な事項に関すること

3. 「日立モデル」とは

日立総合病院・鴨志田敏郎消化器内科主任医長は「日立モデル」について、次のように述べられています。

「日立モデル」とは2025年問題を視野に医科歯科連携を強化して、医療、介護、福祉の包括的ケアを実現する構図です。そして、2/3以上の地域住民が「かかりつけ歯科医」を持っており、口腔管理や口腔ケアによって健康寿命の延伸が図れるという確たるエビデンスがあるということが背景にあります。

二人に一人が「がん」にかかり、三人に一人が「がん」で亡くなる時代です。がん周術期口腔管理が肺炎など術後合併症の軽減、在院日数の短縮等に有効であることが多数報告されています。また、肺炎が死因の三番目で、誤嚥性肺炎が多い時代です。歯科診療や口腔ケアを「日立モデル」で行うことで誤嚥性肺炎から寝たきりになる事を防ぎ、生活習慣病を予防して健康寿命と平均寿命を近づけることが理想です。

日立は、人口構成・高齢化が日本の代表的な地方都市であり、この地域でできれば日本各地でできるはず。少ない医療リソースで最大限の効果を発揮するのがチーム医療であり情報の共有です。対策は急務です。また、退院後は介護、在宅のチームと連携して、地域での口腔ケア等へと展開していくと「日立モデル」として全国へ発信できるチーム医療になると思います(図6)。

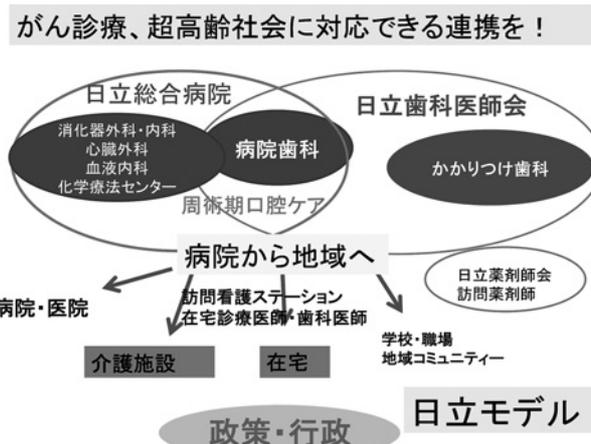


図6 遠大な「日立モデル」連携図、病院歯科の果たす役割は大きい。「病院から地域へ」はこれからの大きな課題(資料提供、鴨志田敏郎・消化器内科主任医長)

4. 健康長寿「日立モデル」の経過

2013年6月、日立市内の天地閣において、「がん周術期の医科歯科連携を円滑に進めるコツ」のテーマで記念すべき第1回の連携講習会が開催された。日立総合病院より、鴨志田敏郎消化器内科主任医長、丸山常彦消化器外科主任医長、石井秀幸歯科主任医長、さらに2名の歯科衛生士をお迎えして、それぞれ専門性の高いレクチャーを拝聴できました。そこかしこに病院歯科を仲立ちとした医科歯科融和へ向けて明るい兆しを感じられました(図7)。その後、地域医療連携に関する協定書を締結。10月、講習会参加者に地域連携歯科医証の発行(54歯科医療機関の登録)へと繋がり相互に顔の見える関係へと進展しました。(既述)

2014年、1月、地域連携サロンへ日立歯科医師会として初参加、筆者は日立歯科医師会が進めている「医科歯科連携」についてミニレクチャーを行いました(図8)。2月、渡辺泰徳心臓血管外科主任医長及び鈴木光子地域医療連携室長を迎えて第2回連携講習会開催、心臓手術と口腔ケアの関わり、ワーファリン等抗血栓剤の服薬の問題、また情報提供書を介したスムーズな病診連携のあり方などを学ぶことができました。

がん・周術期の口腔ケア連携講習会

(2013年6月)



図7 「周術期の医科歯科連携を円滑に進めるコツ」をテーマに、第1回医科歯科連携講習会が開催され、顔と顔の見える関係が芽生えた

6月、地域連携サロン参加、日立総合病院・石井秀幸歯科主任医長による「歯科診療再編、医科歯科連携の現状と課題」についてプレゼンテーションが行われ、医科歯科連携後のがん周術期口腔管理の成果等を示して頂きました。

7月、肝疾患市民公開講座に参加し「口腔ケアについて」筆者はプレゼンテーションを行う機会をいただきました。歯科の立場から、肝疾患やがんと「口腔ケア」の関わりについて市民に発信することができました。10月、間宮会長、筆者を含め5名で日立総合病院を訪れ、NSTチームのカンファレンス参加、病棟回診、外来化学療法センター見学を行いました。院内ではそれぞれの職種が結集して患者の治療方針や問題点の抽出など、チーム医療の姿を学び、そして入院患者の訴えには、食べること、飲み込む事等、歯科医に課せられた責務を再認識できました(図9)。

11月、日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会に参加し、小林良誌会員が「日立歯科医師会における多職種連携への取り組み」のテーマでプレゼンテーションを行いました。会場からは、「日立モデル」に興味を持たれた出席者より良好な医科歯科連携が構築できた経緯について熱心な質問が寄せられていました。

2015年、1月、地域連携サロン参加、杉田裕一

地域連携サロンに初参加 協力体制の強化・顔の見える医療連携

2014年1月・日立総合病院会議室

- 当日のレクチャー
1. 日立歯科医師会 医科歯科連携
 2. 日立梅ヶ丘病院 施設案内と地域連携の課題
 3. 日立総合病院 救急救命センターにおける退院支援の現状



会場には、軽食、ソフトドリンク、アルコール類が準備されている

図8 地域連携サロン、多職種が加わり地域医療・介護の課題等を語り合う、オープンな広場

会員が「糖尿病と歯周病」についてのプレゼンテーションを行いました。信頼するデータをもとに両疾患の深い相補関係について示し、かつ歯周病治療の有用性について症例を交えながら説きましたが、会場より歯周病治療の効果に大きな反響がありました。2月、第3回連携講習会開催、品川篤司血液・腫瘍内科主任医長による「血液疾患における歯科治療の問題点」及び城向富由子がん化学療法看護認定看護師による「がん化学療法で大切にしていること」のテーマで、それぞれ専門性の高い講演を拝聴できました。

日立総合病院見学

(2014年10月)



NSTカンファレンス、病棟回診

図9 化学療法センター、NST見学、カンファレンス参加、病棟回診等、かかりつけ歯科医として病院に足を運ぶ意義は大きい。現在、日立総合病院・本館棟の工事が進められ、来春には生活習慣病センターもオープンする

同月、神戸で開催された日本静脈経腸栄養学会において、鴨志田敏郎消化器内科主任医長は「変化するNST-医科歯科連携から地域一体型NSTへ」のタイトルで発表されました。その中で、周術期口腔管理における医科歯科連携の成果を、医科の立場から医師やコメディカルスタッフ向けに広くアナウンスされたことは、歯科の強い追い風になったことは想像に難くありません。そして、同月、筆者は第23回茨城県歯科医学会において、「地域連携への架け橋・日立モデルの創設」と題してポスター発表を行いました(図10)。会場では、関心を寄せて頂いた参加者と有益な討議を重ねることができ、医科歯科連携「日立モデル」を、次なるステップに進めていく確かな手ごたえを感じることができました。

5. 健康長寿「日立モデル」の成果

1) 連携講習会について

日立総合病院各診療科の医師を講師に招き、連携講習会を開催し、本年で3回を数えます。講師となられる医師、看護師等より各専門領域の視座から歯科との関連性をお話し頂けますので、歯科

疾患と全身疾患との関わりを再認識できるという相乗効果も生まれています。さらに、懇親会では各診療科の医師や看護師等と全身的な疾患を抱える高齢者等の照会事例などについてアドバイスをいただく等、身近に抱える諸問題について相談を行えますので力強い追い風となっています。

2) 地域連携サロンについて

2014年1月、日立総合病院主催の地域連携サロンへ歯科医師会として初参加しました。年に2回開催される連携サロンでは、病院関係者のみならず地域の医療、介護、福祉に腐心されているMSW、精神保健福祉士、保健師、事務職など多職種の方々より、それぞれの専門分野から、地域連携に役立つ有用なレクチャーを聴くことができます。その後、アルコールも提供され会話の弾む開放的な集会となっており、フランクに情報交換、情報共有の時を過ごさせて頂いております。

地域連携サロンは、2000年に地域医療連携を効果的に進めるため、レクチャーと懇親会を通して「地域の医師」と「院内医師」の顔が見える連携を図る目的で開催されたということです。そして、連携サロンへ歯科医師会が加わらせて頂いたことにつ

地域連携への架け橋「日立モデル」の創設

日立歯科医師会 ○黒澤 俊夫、関宮 高弘、関 実、薄井 克巳、北見 英理、田所 重映、小林 良誌、杉田 裕一、高島 章悦、西野 有一
 日立総合病院 奥村 稔、鴨志田敏郎、丸山常彦

2025年問題
 後期高齢者の急増

日立モデル
 がん診療、超高齢社会に対応できる連携！

まとめ
 日本歯科医師会、和明人副会長は、「これからの歯科医療の在り方」を以下のように述べておられます。

成果

図10 「日立モデル」、茨城県歯科医学会において発表したポスター

いて、「新たな情報共有ができ学びを深める良い機会になっています。雰囲気も良い」と病院サイドからの有り難いコメントを頂いております。

3) 日立総合病院歯科口腔外科における周術期口腔管理件数、紹介率について

がん周術期口腔管理を開始してから、献身的なネットワークづくり等歯科口腔外科の変革には目を見張るものがあります。奥村病院長の慧眼と、鴨志田消化器内科主任医長、丸山消化器外科主任医長の深い洞察に負うところが多大であると思います。さらに、間宮日立歯科医師会長の医科歯科連携に懸けるパッションと奥村病院長との両者に築かれてきた、友好と信頼によるところが大きかったものと思われま。そして、病院全体で歯科をフォローアップいただいた結果、院外においては日立歯科医師会との医科歯科連携強化、院内においては歯科から口腔外科へと標榜転換などの機構改革が行われました。そして、がん周術期口腔管理において、消化器内科、消化器外科はもとより血液内科はじめ関連各科との連携が進み、取扱件数は右肩上がりで飛躍的に上昇しています。また、紹介・逆紹介率もともにアップするなど多大な成果が生まれております(図12、13)。また、現在、周術期口腔機能管理のアウトカム評価が行われているところと聞き及んでいます。有益な結果の待たれるところです。

6. まとめ

がん周術期口腔機能管理の医科歯科

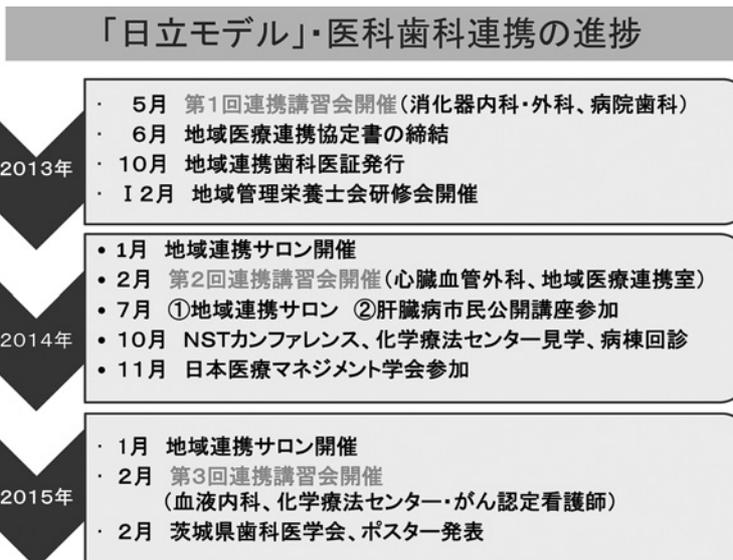


図11 医科歯科連携の活動成果

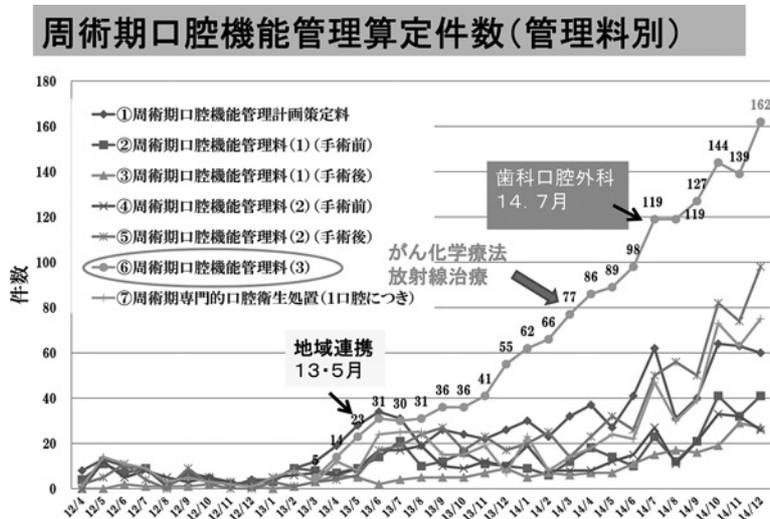
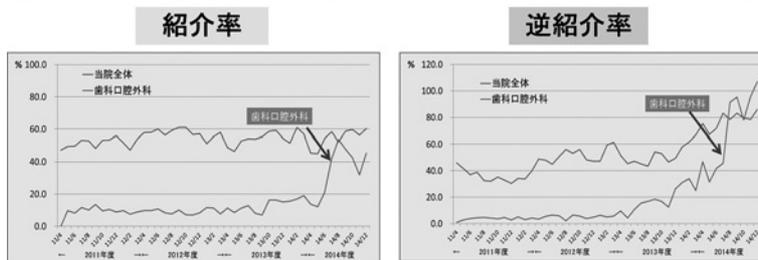


図12 日立総合病院・歯科口腔外科の周術期口腔管理算定件数は右肩上がり。特に化学療法・放射線治療の算定件数の増加は著明。日本静脈経腸栄養学会において、鴨志田敏郎・消化器内科主任医長よりその成果が発表された

日立総合病院・歯科口腔外科、紹介率の推移



紹介率:50%超え 逆紹介率:70%超えに貢献!!

図13 同じく、紹介率・逆紹介率の推移である。地域連携、院内連携、歯科口腔外科に特化した等様々な要因が好結果をもたらしたものと推察される。

(図11、12 資料提供は鴨志田消化器主任医長)

連携から始まった「日立モデル」ですが、多職種の集う地域連携サロン等への参加によって連携の輪はさらに広がりを見せています。そして、歯科口腔外科を仲立ちとして、地域歯科医師会と院内の診療各科医師、看護師等コメディカルスタッフと、いわゆる顔と顔の見える関係が芽生え醸成されつつあります。これからも定期的かつ継続的な連携を育みながら、情報共有をはかり、絆を深めて参りたいと思います。

また、後期高齢者の増加にともない、フレイル（虚弱）の問題がクローズアップされてくることは必至です。今後、「食（栄養）」の問題と多面的に正対するためにも積極的に病院に赴き、NSTカンファレンス、病棟回診へ参加して知見を広くすることは、高齢者の心身の特性を複眼でとらえる羅針盤となり、医科歯科連携の宝庫となるのではないのでしょうか。

ところで、退院後の在宅医療と介護との連携を、

どのように構築していくかはこれからの大きな課題となり、越えなければいけないいくつかのハードルもあります。日立モデルのシェーマに掲げた、「病院から地域へ」のモットーが空転することなく、退院後のシームレスな連携を急がなくてはなりません。

来春には日立総合病院に生活習慣病センターがオープンする予定です。先に示した地域医療連携協定書にも生活習慣病予防が謳われておりますので、糖尿病と歯周病との相補関係から医科歯科連携を進めていく絶好の機運と捉えています。また、生活習慣病と口腔疾患との関連についての地域への啓発はさらに膨らむと想定されます。

2025年に向けて医科歯科連携「日立モデル」は着実に始動しています。これからも、「ローカルこそが最先端」の気構えを持ち、豊かな健康長寿社会実現に向けて「日立モデル」の輪を広げて参りたいと思います。

茨歯アンテナ

2015年 3月18日 (水) 茨城新聞

災害時に口腔ケア
市歯科医師会と協定
常総市

常総市と同市歯科医師会は17日、災害時の歯科医療救護についての協定を締結した。市内で大規模災害が発生した際、市の要請を受け、歯科医が避難所などで被災者の口腔ケアに当たる。

協定によると、市歯科医師会に加盟する医療機関は、避難所などで、口内傷病者の応急処置や高齢者らの口腔ケア、法医学に基づく遺体の身元確認作業を



支援する。

同協定は、東日本大震災を受け、県と県歯科医師会が2013年3月、新たに結んだ協定を踏まえ、市町村ごとに締結している。調印式は同市水海道

災害時の歯科医療救護協定に調印する高杉徹市長(右)と秋葉徹会長(常総市役所)

諏訪町の市役所で行われ、高杉徹市長と市歯科医師会の秋葉徹会長が協定を交わした。県歯科医師会の森永和男会長が同席した。

高杉市長は「市民の命と健康を守ることが第一。口の健康は全身の健康を左右するので協定は心強い」とあいさつ。秋葉会長は「万が一、災害が発生した

際は、少しでも市民の役に立ちたい」と話した。

2015年 4月2日 (木) 茨城新聞

歯の健康づくり推進

県 口腔保健センター開設

県は1日、保健予防課内に「県口腔保健支援センター」を設置した。歯科に携わる関係者に情報提供するほ

か、人材育成のための研修実施などを支援し、県民の歯や口の健康づくりを推進する。センターは歯科口腔保健推進法に基づき設置される。全国で16番

目。センター長には松岡輝昌保健福祉部長が就き、常勤の歯科医師と歯科衛生士の計2人と、非常勤の歯科医師1人を配置した。同日、同課入り口に看板を掛けた。

センターは、県民の歯と口の健康状態を把握するための実態調査を行い、主に病院や歯科医師、学校に情報提供する。また、80歳で20本、64歳で24本の自分の歯を持つ運動の普及や、在宅歯科医療の推進、歯科衛生士らの研修、心身障害者(児)向けの歯科診療所運営費補助などを実施していく予定。

同課は「生涯を通じて歯の疾患予防とともに、特に要介護高齢者や障害者らの歯科医療を確保するため、在宅歯科医療の充実を図っていきたい」と話している。

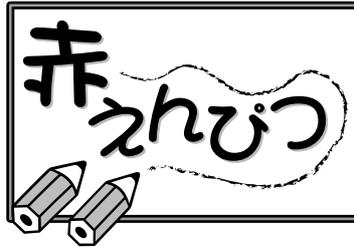
(小池忠臣)



看板を掛ける松岡輝昌保健福祉部長(左)と根本雄二保健予防課長＝県庁

校関係者らによる運営委員会も置き、関係機関の連携を強化して、施策の企画・立案につなげる。

同課によると、虫歯のない3歳児の割合は2012年度の調査で79・6%となり、全国平均の80・9%を下回っている。80歳で20本以上の自分の歯を持つ人の割合も38・4%にとどまる。



この3月に、親としては最後になる上の娘の薬剤師国家試験の発表があった。昨年の下の娘の時と同じような心配は無いものと思っていた。その通り就職、卒業試験は問題なくクリアしたのだが、国家試験で大どんでん返し。

国家試験終了翌日にいきなり、予備校へ通う準備が必要で、入学金がいくら必要になると言い始めた。よく聞いてみると自分なりに採点してみて基準点に達してないとのことで、明日に大学にて自己採点があるとの事も分かった。もう少し精度が高い自己採点後に考えようと、その夜は落ち着いた。親としては、本人が一番辛いと分かっているが娘の今までの努力を信じるのみである。

翌日の夜に明るい声で基準点をクリア出来たと帰宅した。親としては「ホット」するのみである。そのお陰で娘の卒業式を心穏やかに見ていられた。余談ではあるが、比べるものではないが私の卒業証書より大きかった。

合格発表その日にもまた事件が起きた。発表時刻になっても合格の声が聞こえない。静かな時がただ経っていくだけで、1時間が過ぎた。まさかと思いきや、午後1時の発表と思っていたのが、なんのことはない2時の発表とのことで、2時過ぎに合格と連絡が入った。この1時間余りで、

色々な事を考えてみたが無駄に終わって良かった。

就職まで育てれば、親としての子育ての責任はもう終わりかなと。自分で選んだ道に自信と誇りを持てるように、日々研鑽精進して欲しいと願うだけである。それは自分にも言える事である。

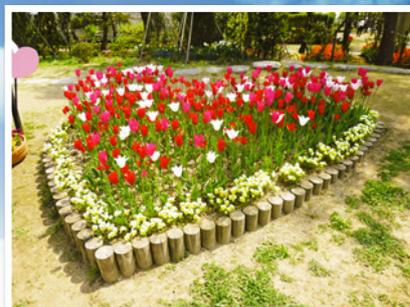
(コスモッコ)

ポール・マッカートニーが昨年に続き、今年も来日する。昨年5月は体調不良で全4公演を中止し、私も国立競技場まで行って、公演直前に中止になり悔しい思いをしたが、今年はそのリベンジとして来日し、体調も大丈夫そうだ。御年72歳。エリック・クラプトンが70歳、ローリング・ストーンズのミック・ジャガーとキース・リチャーズが71歳。ポールの方が1歳年上で、東京ドーム公演における史上最年長アーティストの記録になっているそうだ。本当にツアーを組んで来日してくれるだけでありがたいと思う。自分の好きなアーティストが高齢化してきているので、とても寂しい気がする。いつまでも元気で、1回でも多く来日コンサートツアーをしてくれることを望んでいる。

(勝)

みんなの写真館

Photo
Gallery



富山県砺波市は日本でも有数のチューリップの球根の生産地です。
4月23日ー5月6日に開催される「となみチューリップフェア」では公園内が色とりどりの花で埋め尽くされてとても綺麗です。

(社)日立歯科医師会 小松 栄一

会員数

平成27年3月31日現在

支 部	会員数(前月比)
日 立	121
珂 北	137 -1
水 戸	158
東西茨城	74
鹿 行	103
土浦石岡	172
つ く ば	119
県 南	175 -4
県 西	155 -2
西 南	106
準 会 員	1
計	1,321 -7

みんなの写真館写真募集!

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

1種会員	1,140名
2種会員	48名
終身会員	132名
準会員	1名
合計	1,321名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 27 年 4 月
発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地
電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075
ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>
E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 征矢 亘
編集人 菱沼 一弥



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。